

まえがき

本書は、2023～2024年度にかけてアジア経済研究所で実施された共同研究会の成果である。インドネシアでは、スハルトによる開発独裁体制が終了した直後の1999年以降、5年ごとに総選挙が実施されている。2004年からは大統領の直接選挙も導入されたが、現在に至るまで大きな混乱もなく民主的な選挙が続いている。アジア経済研究所では、この5年に一度の選挙ごとに研究会を組織してその成果を広く公開しており、前回の2019年総選挙・大統領選挙時には、川村晃一編『2019年インドネシアの選挙——深まる社会の分断とジョコウィの再選』（アジア経済研究所、2020年）を出版している。そして今回、2024年の選挙にあわせて立ち上げられた研究会の成果が本書である。

序章・終章を含めた全15章と巻末資料で構成された本書は、大きく3つの課題に取り組んでいる。まず、2期10年に渡るジョコウィ政権の多角的評価を試みている。つぎに2024年の総選挙・大統領選挙における選挙運動や投票行動の分析を行い、そして最後に、2024年10月に発足したプラボウォ・スピアント新政権の特徴を探っている。

こうして今回も無事に研究成果の出版に至ったのは、何よりもまず、研究会に参加された委員の皆さんの多大なご協力のおかげである。アジア経済研究所の内外から14名もの研究者が集まったことにより、本書はこのように質量ともに重厚な内容となった。また、アジア経済研究所学術情報センターの編集担当者には、すべての原稿に丁寧に通していただき適切なコメントを頂戴した。あらためて感謝をお伝えしたい。

最後に、本書はオンラインで無料公開されている。加えて、研究会の成果の一部は、すでに「2024年インドネシアの選挙」特集記事として、アジア経済研究所のウェブ・マガジン『IDE スクエア』にて公開済みである。この連載記事とあわせて、本書もお手元にダウンロードの上必要に応じて参照いただきたい。有料とはなるものの本書は冊子体での入手も選択可能である。ご希望の方は三省堂書店や楽天ブックス、もしくはアマゾンのプリント・オン・デマンド（POD）にて発注していただきたい。本書を通じてインドネシアの現状に対する理解が深まれば幸いである。

2025年10月 編者